

整備された古墳が創り上げた風景 —五色塚古墳と宝塚古墳を事例として—

LANDSCAPE CREATED BY PRESERVATION AND RESTORATION OF
MOUNDED TOMBS
— GOSHIKIZUKA MOUNDED TOMB AND TAKARAZUKA MOUNDED TOMBS —

小野 健吉 (大阪観光大学)

ONO KENKICHI (OSAKA UNIVERSITY OF TOURISM)

風景 / LANDSCAPE 景観 / PROSPECT

五色塚古墳 / GOSHIKIZUKA MOUNDED TOMB

明石海峡 / AKASHI STRAIT

宝塚古墳 / TAKARAZUKA MOUNDED TOMBS 伊勢湾 / ISE BAY

1. はじめに

わが国では1960年代から、集落遺跡・寺院跡・宮殿官衙遺跡・城跡・古墳等さまざまな類型の遺跡の整備が本格的に実施され、確実な保存に資するとともに適切な活用の基盤を整えてきた。昭和39年（1964）から開始され現在も続く平城宮跡の整備はその代表的な事例である。

本稿では古墳の整備事例を取り上げ、その整備が創り上げた風景について、来訪者からの評価も含め考えてみたい。ここにいう風景とは、整備された古墳とその周辺一帯の外形としての風景、整備された古墳から見た風景の双方を指す。本稿では、兵庫県神戸市の五色塚古墳と三重県松阪市の宝塚古墳の二例を取り上げる。

2. 五色塚古墳

(1) 古墳概要¹⁾

五色塚古墳は、神戸市垂水区に所在する前方後円墳である。明石海峡に面し、淡路島を望む段丘上に位置する。築かれたのは4世紀の終わり頃と推定され、築造当時は、埋め立ての進んだ現状よりもはるかに海岸線に近接した立地であった。

古墳は墳丘周囲に深い濠（周濠）を持ち、その外側に浅い溝が巡る。墳丘の大きさは、全長194m、前部は幅82.4m・高さ13m、後円部は直径125.5m・高

さ18.8mである。3段築成で、下段は地山削り出し、中段と上段は周濠掘削土等による盛土による造成である。墳丘全面に葺石が施されており、総数223万個・総重量2784トンと推定されるその石材は淡路島から運ばれたものであることがわかっている。また、各段の平坦面と頂部には鰐付円筒埴輪が立て並べられていた。なお、五色塚古墳の西側には、直径67mの円墳である小壺古墳が隣接する。

五色塚古墳の墳丘長は全国の古墳で40番目程度に位置づけられるが、築造された時点においては、大和・柳本古墳群に属する3世紀代の箸墓古墳（奈良県桜井市）や西殿塚古墳（奈良県天理市）、佐紀盾並古墳群（奈良市）に属する4世紀代の五社神古墳・佐紀陵山古墳といったヤマト政権に関連する古墳などに次いで10番目程度に位置する当時屈指の大きさの古墳であった。被葬者については、明石海峡を見下ろす立地から、海峡とその周辺を支配した首長と考える説が有力である。明石海峡は、中国・朝鮮半島から瀬戸内海を経てヤマト政権の外港たる大阪湾に入る海上交通の要衝であり、その一帯の支配者に対してヤマト政権は自らと同等の古墳築造を許したと解釈されている。当時の集落分布や周辺に五色塚以外の大型古墳がほとんどみられないことから詳細は不明というほかないが、五色塚古墳に用いられた膨大な量の葺石が淡路島産であることに鑑みれば、海峡北岸だけでなく南岸にあたる淡路島も支配領域としていた可能性も指摘できよう。なお、

文献史料では、『日本書紀』神功皇后摂政元年条に偽陵として記される「山稜於赤石」が五色塚古墳を指すと見る説が有力である。

(2) 整備の経緯と概要²⁾

大正10年（1921）に史蹟名勝天然紀念物保存法による史蹟に指定された五色塚古墳および小壺古墳は、樹木の生い茂る林の様相を呈していたが、太平洋戦争中には樹木が伐採され、戦中から戦後にかけては開墾されて畠地となった。昭和25年（1950）の文化財保護法に基づく史跡となった後も荒れた状態が続いていたが（図1）、昭和40年、周辺の宅地化が進んで環境が変化する状況のなか、五色塚古墳の史跡環境整備事業が開始される。発掘調査や整備の手法の変更などもあり、当初6年計画だった事業が完了したのは、結果的に10



図1 整備前の五色塚古墳（北上空から）



図2 整備後の五色塚古墳（北上空から）

年後の昭和50年3月であった（図2）。ここで、墳丘の整備について概略を記しておきたい。

昭和45年度までの前方部の整備では、発掘調査で明らかになった古墳築造当時の残存面を基にした整備をおこなった。必要に応じて盛土もおこないながら想定墳丘地形を復元し、下段は張芝仕上げとしたものの、中段・上段については、一部の葺石残存部分は露出展示により整備しつつ、大部分の葺石欠損部分は転落していた当初使用の葺石を採集して吹き直すという手法を採用している。一方、昭和46年度以降におこなわれた後円部の整備では前方部の整備で懸念された保存上の脆弱性を解消するため、盛土等で造成した想定墳丘地形をさらに盛土と二和土で覆い、下段は前方部同様に張芝仕上げとするものの、中・上段は二和土の上に新規購入した本来の葺石と同サイズの円礫を葺いて仕上げるという復元整備³⁾の手法を採用した。その結果、仕上げ高は後円部のほうが前方部よりも50cm程度高くなつたが、その高低差は境界部に新設した階段によつて目立たないように処理している。埴輪については、発掘調査により墳頂部・上段テラス・中段テラスで鱗付円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪などが確認されたが、整備では後円部と前方部の墳頂にのみレプリカを設置した。

(3) 整備された五色塚古墳の風景

ここにいう整備古墳の風景とは、冒頭で述べたとおり、一つは整備された古墳とその周辺一帯の外形としての風景、言い換えれば整備古墳のある風景であり、もう一つは整備された古墳から見る風景（眺望）である。

前者の観点では、葺石に覆われた墳丘に埴輪が立ち並ぶ形に整備された「図」としての五色塚古墳の外形が基本的に変化していないため、周辺での中層マンション等を含む宅地化の進展による「地」の大きな変化の中で、その存在感を一層増大していると言つてよいだろう。JR垂水駅を起点とする北からのアプローチにせよ、山陽電鉄霞ヶ丘駅から来る南西からのアプローチにせよ、五色塚古墳が視界の中に現れ、その全貌が次第に明らかになる視覚的なインパクトは極めて大きいものがある（図3・4）。一方、後者の観点では、10年間に及ぶ架橋工事を経て平成7年（1995）に



図3 北からのアプローチから見た五色塚古墳



図4 南西から見た五色塚古墳



図5 後円部から明石海峡大橋・淡路島・大阪湾を望む

竣工した明石海峡大橋が五色塚古墳からの風景を大きく変えた。いま古墳から南方を眺めると、淡路島との間に架かる明石海峡大橋が架橋以前とは大きく異なる印象的な風景を創っているが、有史以前から垂水・明石側と淡路島側を隔ててきた明石海峡の存在がある意味で強調される結果ともなっている。また、視線をやや左（東寄り）に向けると大阪湾が一望でき、かなたには右手の淡路島と左手の和歌山市との間の紀淡海峡がうっすらと認識できる（図5）。復元整備され築造当初に近い姿を取り戻した五色塚古墳からこの風景を見ると、その被葬者は、海上交通の要衝である明石海

峡を支配下に置いていただけでなく、大阪湾全域に大きな力を保持していたのではないかとの空想も湧き上がる。そうすると、『日本書紀』にある偽陵の記事は、その強大な勢力ゆえにヤマト政権にとって不都合な存在となった被葬者を歴史から抹殺するためのものであったのではないかといった想像も膨らんでいくのである。こうしたことこそが、歴史的空間に実際に身を置くことの醍醐味とも言えよう。

（4）来訪者の評価

インターネットの関連サイトで五色塚古墳に関する来訪者の評価を見ておきたい。

まず、旅行サイト「トリップアドバイザー」の口コミは、2023年8月6日現在、投稿数が80件で⁴⁾、うち「とてもよい」21件、「良い」45件と全般に評価は高い。投稿のうちコメントを含むものは72件で、このうち明石海峡・淡路島・明石海峡大橋などへの眺望についてのコメントが58件にのぼり、これらはほぼ肯定的評価のコメントである。なかには、「北東には鉢伏山（須磨浦山上遊園やその付属施設がある山。かつて旧摂津国と旧播磨国との国境）が望め、北西には丘に連なる住宅街が、そして南に視線を向ければ、明石海峡、明石海峡大橋、そして淡路島が手に取るように望めます」（2016年5月）や「後円部は、360度の眺望。周囲は、住宅、マンションだらけですが、東に、須磨浦の山並みを見ることができます。海側は、左（東）から、紀伊半島、友ヶ島、淡路島、明石海峡大橋の眺めですが、マンション群が、ちょっと目障りです。」（2016年7月）といった360度の視界に触れたコメントも見られる。一方、葺石や埴輪も含めた復元整備についてのコメントは、復元整備を実施したことで外形的認識が容易になったという趣旨のものを含め、32件である。「樹木がないので古墳の建造当時はこんな感じだったんだろうと思います。」（2019年5月）や「当時のままに、葺石や、レプリカのハニワにより、復元されている。（中略）現在の古墳は木に覆われたイメージであるが、本来の姿を取り戻している。」（2015年6月）といった復元整備に肯定的なコメントが見られる一方で、「綺麗に整備されており、逆に「古墳」の印象が薄れているようにも感じました。」（2019年3月）や「残念

ながら再現された古墳なので歴史は感じられませんでした。」(2020年9月)など造営当初の姿を復元した整備にやや否定的なコメントも少数ながら見られる。

また、グーグルマップ付設のクチコミは、2023年8月6日現在、1021件もの投稿があり⁵⁾、5段階評価をみると平均4.2の高評価を得ている。キーワード分類では、景観・眺望に関連する「景観」「頂上」「明石海峡大橋」「船」を含むコメントがそれぞれ9・13・54・14件、歴史や復元整備に関連する「古代」「墓」「埴輪」「豪族」を含むコメントがそれぞれ33・24・15・13件、である⁶⁾。景観・眺望に関連するコメントも、歴史や復元整備に関連するコメントも、その内容は概ね肯定的である。例えば、景観・眺望に関しては、「明石海峡大橋が見え、たくさんの大型船が行き交う海が見えます。潮風が気持ちよい素敵な古墳です。」(2023年7月)、「頂上から見える鳴門大橋(ママ)と夕日の景色が美しかったです。」(2023年2月)といったコメントが代表的なものである。また、復元整備に関しては、「今ではきれいに整備復元されて、周囲の石積みや埴輪が置かれ、古墳ができた1500年前(?)はこうだったんだな~と再認識できる。」(2023年3月)、「なにより復元されていて横から見て古墳だと解るのがいい。世界遺産の天皇陵辺りは横から見るとただの森にしか見えないからね。」(2023年7月)といった復元整備に対する積極的評価のコメントが見られる。

(5)まとめ

以上、五色塚古墳について、古墳の概要、整備の経緯と概要、整備古墳の風景について記し、インターネットの関連サイトでの口コミ評価についても簡略に整理した。それから、整備された五色塚古墳の風景等に関する評価を以下に取りまとめておきたい。

A. 4世紀後半築造の大型前方後円墳を造営当初の姿に復元整備するという五色塚古墳の整備は、わが国の遺跡整備事業の一つの画期を成すものであった。

B. 五色塚古墳の復元整備が創り上げた風景のうち外形的風景については、葺石が全面的に葺かれ埴輪が立て並べられた古墳本来の幾何学的・人工的な姿が、変化する現代の都市空間の中で大きな視覚的インパクトを持つ。時を経て木々に覆われた姿という今見る一

般的な巨大古墳のイメージとかけ離れていることから違和感を覚える人もいないではないが、本来の姿を提示することにより前方後円墳あるいはその時代を考える素材となっている意義は極めて大きい。

C. 復元整備された古墳からの風景は、後円部墳頂からは遮るものなく360度の眺望がきくことから、その立地が明確に理解でき、この古墳の大きな魅力となっている。とりわけ南西に近接する明石海峡方向への眺望は被葬者の海峡支配の力を想起させるものであり、さらに南遠方の紀淡海峡への眺望は被葬者の大阪湾全域に対する影響力すら想像させる。

復元整備から50年近くが経過しようとしているが、神戸市による適切な管理により古墳の創り上げた風景が概ね良好に保たれており、日本の遺跡整備事業の中でも特に成功したものの一つに数えられるであろう。

3. 宝塚古墳

(1) 古墳概要⁷⁾

宝塚古墳は、三重県松阪市に所在する宝塚1号墳と宝塚2号墳の総称である(図6)。現在の松阪市街地中心部から南方約2kmの丘陵に立地し、かつては一帯に多くの古墳が存在したが、宅地開発等によりほとんどが姿を消した。そうしたなか丘陵頂部に遺る宝塚1号墳は、全長111m・前方部最大幅66m・後円部直径75m・最大高10mと伊勢地方最大の規模を持つ前方後円墳である。5世紀初頭の築造で、この地域を支配した首長墓と考えられる。後円部を西、前方部を東に配するこの古墳は、3段築成で、墳丘斜面には葺石が葺かれ、テラスには埴輪が立て並べられていたことが発掘調査で明らかになった。さらに古墳の北側には、前方部北面と土橋でつながった祭祀空間である長方形の造り出し(幅18m・奥行16m)を備えており、そこではわが国最大級の船形埴輪をはじめ圓形・家形・蓋形などの形象埴輪が出土している。この埴輪群は、被葬者の位置づけや当時の古墳祭祀の様子を考える手がかりを多く提供することになった。

一方、宝塚2号墳は、1号墳北側の一段低い場所に造られた5世紀前半の帆立貝形古墳で、1号墳被葬者

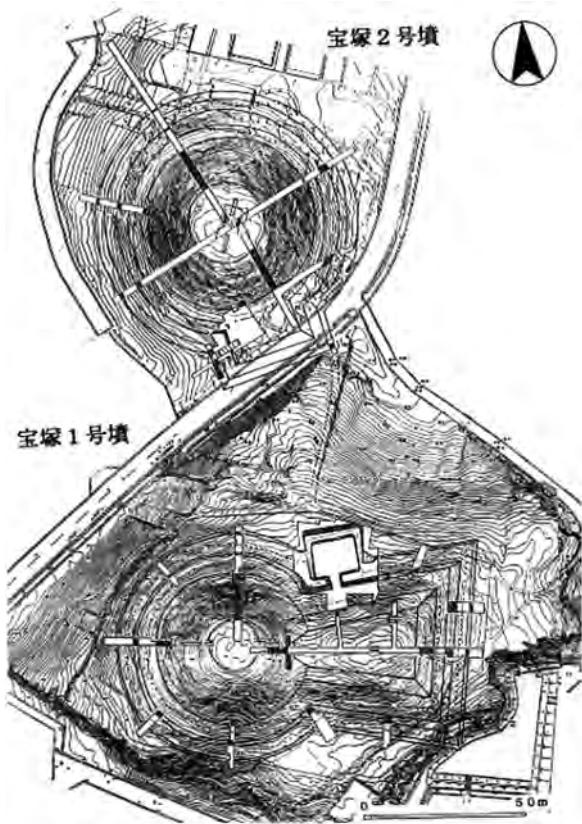


図6 宝塚古墳平面図

の後継者の墳墓と見られる。全長は90m、後円部径は83mで、後円部を北北西、方形突出部を南南東におく。3段築成の墳丘斜面は葺石で覆われ、各テラスには埴輪が立て並べられていた。

(2) 整備の経緯と概要⁸⁾

1号墳と2号墳で構成される史跡宝塚古墳の整備事業は、平成11年（1999）から始まり、同17年（2005）3月に完了した。事業の実施にあたっては、八賀晋・三重大学名誉教授を委員長とする史跡宝塚古墳保存整備指導委員会が組織され、筆者も委員の一人として参画した。整備の基本方針に関する当初の議論では、神戸市の五色塚古墳をはじめ広島県東広島市の三ツ城古墳や長野県千曲市の森将軍塚古墳などで実施された葺石や埴輪も含めて造営当初の姿に復元整備する案も検討されたが、総合的観点から松林に覆われた地域の原風景ともいるべき当時の現状を保全するタイプの整備手法をとることで最終的に合意がなされた。ところが、整備事業と並行して実施していた1号墳の発掘調査のなかで、全く想定していなかった前述の造り出し部が



図7 宝塚1号墳出土の船形埴輪



図8 整備完成直後の宝塚1号墳（株空間文化開発機構提供）

確認され、そこからほぼ完形に復元しうる日本最大級の船形埴輪（図7）が出土して全国的な注目を浴びることとなったのである。その状況を受け、この造り出し部だけをスポットライトを当てるよう復元整備する変更案を筆者らが提案し、委員会でも承認された。いわば現状保全的な整備を「地」に、造り出し部を「図」として際立たせようとの考え方である。

(3) 整備された宝塚古墳の風景

宝塚1号墳は、造り出し部を造営当初の姿に復元整備するという手法を取りつつ、全体としては松林の景観を保全するかたちで整備され（図8）、2号墳についても現状保全的整備がおこなわれた。ところが、その後マツクイムシの被害等によりほぼすべてのマツが伐採され、1号墳では墳丘は草地状となり、2号墳ではコナラ等の雑木が残る状況となっている。

1号墳を戴く丘陵の北裾に設けられた史跡の入口から1号墳に向かって直線的に設けられた園路を上っていくと、造り出し部の輪郭をなす埴輪が目に入ってくる。そして、造り出し部を一周する園路に取り付くと、



図9 宝塚1号墳・造り出し部と墳丘



図11 宝塚2号墳



図10 宝塚1号墳墳頂から望む松阪市街と伊勢湾

埴輪も含めて復元整備された造り出し部の全貌と背後の墳丘を目にすることができる（図9）。マツが伐採された結果、墳丘頂部に上ると360度の視界が開けることとなり、墳丘頂部からは遮るものなく松阪平野一帯を眺望するとともに東には伊勢湾も遠望でき、この古墳の本来の立地がより理解しやすい状況となった（図10）。一方で、復元整備された造り出し部一帯も含めた墳丘部での草刈等の維持管理が必ずしも十分ではなく、そのことが来訪者、とくに古墳見学を目的とする来訪者にとって残念な印象を与えている。また、2号墳は、コナラ等の樹木の密度が高まり（図11）、墳丘頂部からの眺望がかなり妨げられているのが現状である。

なお、1・2号墳の史跡指定地に駐車場やトイレ・ベンチなどの便益施設地区を合わせたかたちでの公園が「宝塚古墳公園」となっている。

（4）来訪者の評価

インターネットの関連サイトで宝塚古墳公園に関する来訪者の評価を見ておきたい。

まず、旅行サイト「トリップアドバイザー」の口コミは、2023年8月6日現在、投稿数は4件（いずれも

コメントあり）と少なく、評価は「よい」1件、「普通」3件となっている⁹⁾。眺望の良さについては、「頂上からは予想以上に良い眺めが楽しめます。市街地が見下ろせるのは勿論、伊勢湾まで眺められました。」（2019年3月）など2件のコメントがあった。唯一「よい」の評価を付けたコメント（2015年11月）は、眺望についての言及はないが、日本最大級の船形埴輪が出土したことに触れたうえで、「造り出しと呼ばれる古墳の付属した盛り土の周りから140点ものはにわがほぼ当時の位置で見つかったことで、古墳でおこなわれた祭りの様子の研究に大変貴重な発見となったそうです。」との記述があり、古墳に興味を持つ来訪者のコメントであることが窺える。

また、グーグルマップ付設のクチコミは、2023年8月6日現在168件の投稿があり¹⁰⁾、5段階評価をみると平均3.8である。キーワード分類では、景観・眺望関連の「頂上」を含むコメントが5件、歴史・復元整備関連の「史跡」を含むコメントが4件である。そのほかのコメントは、「駐車場」「トイレ」「遊具」等、主に公園関連のものである。景観・眺望関連のコメントは、「自然丘陵の頂上に築造されている1号さんの後円部墳頂からは360度素晴らしい眺望」（2022年9月）「古墳頂上からは、松阪の町並から伊勢湾へ一望」（2021年）など、1号墳の墳頂からの眺望を高く評価する内容となっている。一方、歴史・復元整備関連のコメントの中には、「1号墳では、儀式の場であったと考えられる「造り出し」を実物大で再現し、出土した埴輪のレプリカ（複製）を使って、古墳が造られた当時のようすを再現しています。」といった造

り出し部の復元整備に言及したものもあった。

(5) まとめ

以上、宝塚古墳について、古墳の概要、整備の経緯と概要、整備古墳の風景について記し、インターネットの関連サイトでの口コミ評価についても簡略に整理した。それから、整備された宝塚古墳の風景等に関する評価を以下のとおり取りまとめておきたい。

A. 伊勢地域を代表する前方後円墳である宝塚1号墳と隣接する帆立貝形古墳である宝塚2号墳の整備では、地域の原風景となっていた松林を遺す現状保全的な整備を基本としつつ、発掘調査でその顕著な特性が明らかになった1号墳造り出し部だけを復元整備する手法が採用された。1号墳におけるこうした整備は、当該古墳ならではの特性にスポットライトを当てる斬新な手法として評価できる。

B. 宝塚古墳の整備事業が創り上げた風景のうち外的風景については、1号墳では当初保全されていた地域の原風景としての松林は失われたが、結果的に草地状の墳丘の稜線がわかりやすい状況となっている。

また、1号墳造り出し部の復元整備は、整備時点での思惑通りの存在感を保っている。ただし、除草清掃等の維持管理が必ずしも十分ではなく、その価値を減じている面は否めない。なお、2号墳については、コナラ等の雑木林に覆われた状態となっており、眺望確保のための整枝・伐採等が望まれる。

C. 整備された古墳からの風景に関しては、1号墳後円部墳頂からは遮るものなく360度の眺望がきくようになり、その立地が明確に理解できるようになった。東方には伊勢湾も遠望でき、船形埴輪の出土とも相俟ってこの古墳の被葬者の海との関与を想像させる。

整備から20年近くが経過するなかで、1号墳では当初意図した地域の原風景としての松林は失われてしまたが、結果的に360度の眺望が開けて古墳の立地が理解しやすくなるとともに、その顕著な特性である造り出し部の復元整備によるこの古墳独自の特性の明示は今も機能している。貴重な歴史遺産をより多くの人に親しんでもらえるものにするため、松阪市が様々な創意工夫により広報や維持管理を充実させることを期待したい。

4. おわりに

本稿では、ほぼ全面的な復元整備が行なわれた五色塚古墳と造り出し部の復元整備を交えた現状保全的整備が行なわれた宝塚古墳を取り上げ、それぞれの創り上げた風景について論じた。

古墳の整備については、飛鳥地方でも石室が露出した状態の古墳を現状保全的に整備した石舞台古墳、遺構覆屋的機能も想定して墳丘を復元整備した牽牛子塚古墳、装飾壁画保護のための石室解体後に墳丘を暫定整備した高松塚古墳、地形復元を含む現状保全的整備を実施したキトラ古墳などの整備事例がある。これらの古墳の整備が創り上げた風景についても、機会をあらためて論じたい。

本稿に関わる現地調査は、科学研究費基盤B「平城宮跡・藤原宮跡・飛鳥宮跡における風景の再現・創造・継承に関する計画論的研究」(課題番号: 22H02375 代表者: 本中眞)により実施した。

【註】

1) 本節の事実記載は、以下を参照した。

○神戸市教育委員会文化財課編 2006『史跡五色塚古墳 小壺古墳発掘調査・復元整備報告書』

○五色塚古墳 (2023年8月6日最終閲覧) <https://www.city.kobe.lg.jp/a21651/kanko/bunka/bunkazai/estate/bunkazai/syokai/goshiki.html>

2) 本節の事実記載は、前掲註1の文献等のほか、以下を参照した。

○神戸市教育委員会編 1975『史跡五色塚古墳復元・整備事業概要』

3) 本稿では、実際の遺構を保護しその直上に実物大レプリカを設置して造営当初の外形を復元する整備を「復元整備」と呼ぶ。

4) 五色塚古墳トリップアドバイザーコミ (2023年8月6日最終閲覧) https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g298562-d1992267-Reviews-Goshikizuka_Tomb-Kobe_Hyogo_Prefecture_Kinki.html

5) 五色塚古墳グーグルマップクチコミ (2023年8月6日最終閲覧) <https://www.google.co.jp/maps/place/五色塚古墳/@34.6299534,135.043496,17z/data=!3m1!4b1!4m6!3m5!1s0x600083b7693c912b:0x2a74ae9b6bdf28fb!8m2!3d34.629949!4d135.0460763!16s%2Fg%2F1225qfwz?entry=ttu>

6) キーワード分類では、一つのコメントが複数のキーワードでカウントされる場合がある。

7) 本節の事実記載は、以下を参照した。

○松阪市教育委員会編 2006『史跡宝塚古墳保存整備報告書』

○伊勢の王墓 宝塚古墳 (2023年8月6日最終閲覧) <https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/takarazuka-kohun.html>

○宝塚1号墳から出土した日本最大の船形埴輪 (2023年8月6日最終閲覧)

<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/takarazuka-itigouhun-hunegatahaniwa.html>

8) 前掲註7文献。

9) 宝塚古墳公園トリップアドバイザーコミ (2023年8月6日最終閲覧) https://www.tripadvisor.jp/Attraction_Review-g1019676-d8626678-Reviews-Takarazuka_Tumulus_ParkMatsusaka_Mie_Prefecture_Tokai_Chubu.html

10) 宝塚古墳公園グーグルマップクチコミ (2023年8月6日最終閲覧) <https://www.google.co.jp/maps/place/宝塚古墳公園/@34.5504795,136.5130999,17z/data=!4m8!3m7!1s0x6004154ac40cedbf:0xa4e4504ec4663934!8m2!3d34.5504751!4d136.5156802!9m1!1b1!16s%2Fm>

%2F0p8vb3g?hl=ja&entry=ttu

【図出典】

図1・2 神戸市教育委員会編 1975『史跡五色塚古墳復元・整備事業概要』

図3～5 筆者撮影

図6 伊勢の王墓 宝塚古墳 (2023年8月6日最終閲覧) <https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/takarazuka-kohun.html>

図7 宝塚1号墳から出土した日本最大の船形埴輪 (2023年8月6日最終閲覧)

<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/takarazuka-itigouhun-hunegatahaniwa.html>

図8 (株)空間文化開発機構提供

図9～11 筆者撮影

Abstract: This paper discusses the landscape created by preservation and restoration project of Goshikizuka mounded tomb in Kobe city and Takarazuka mounded tombs in Matsusaka city.

Goshikizuka mounded tomb built around the end of the 4th century is a 194-meter-long key-hole mounded tomb located on the plateau near Akashi strait. The preservation and restoration project was carried out in 1965–75, and original exterior with paving stones and clay images was restored. This project, which created very impressive landscape and highlighted the location viewing not only Akashi Strait but also entire Osaka Bay, has been highly evaluated. Preserved/restored Goshikizuka mounded tomb has been in good condition for nearly 50 years owing to adequate management of Kobe city government.

Takarazuka mounded tomb (No.1) is the largest tomb in Ise region with 111-meter-long key-hole mound, built in the early 5th century. The preservation and restoration project was carried out in 1999–2005, preserving pine trees on the mound and putting the full-size replica of the excavated unique narrow terrace right above the original archaeological features. Pine trees died some time after and visitors became able to enjoy the prospect from the top of the tomb subsequently. 360-degree view including the distant view to Ise Bay and the full-size replica of unique narrow terrace make this mounded tomb more attractive. Keeping the preserved/restored mounded tombs (No.1 and 2) clean and enhancing the public relations are desirable.